広報たかつき

知る　広がる　好きになる

TAKATSUKI Days

令和5年
9
No.1426

こだわりサイクル

PICK UP

10 チームオレンジ
～認知症の人を支える地域の輪

20 新型コロナワクチン

39 住み慣れた地域で暮らし続ける

46 保育士などの就職を支援

Story 1

ヨシ⇒布

長いもので5mもの高さに育つヨシ。カットした茎をローラーで砕き、灰汁・水などに漬け込んで繊維化。綿と合わせてやわらかなオーガニック混紡糸となる。Udono fabricではこの糸から織られた布を使うことで、鵜殿の豊かな環境を守り継ぎたいと考えている

商品化
第1号！

ヨシ糸を使った蚊帳生地を5枚重ねにしてしっかり拭けて乾きやすいふきんに。通気性を生かしたストールなども

鵜殿のヨシの価値を伝え、守り継ぐきっかけに

高槻市東部、上牧から鵜殿の淀川沿いに広がるヨシ原。なかでも鵜殿に自生するヨシの繊維を使った布製品がある。開発者の鳥居さんは、高槻に拠点を置く寝具店の3代目社長。鵜殿の再生をコンセプトに開発されたヨシの繊維を用いた糸があることに注目した。ヨシ原は水や土などを浄化し、多種多様な動植物が生息する貴重な場所。高槻に縁あるものづくりと環境への想いから「Udono fabric（うどのファブリック）」というブランドを立ち上げた。

まずめざしたのは、幼児向けのケットだ。ヨシは急速に成長することから、生命力の象徴ともされてきた。そんなヨシは、「すくすくと、まっすぐ育ってほしい」という子どもの成長への想いを託す寝具にぴったりだと考えたのだ。生地作りを試行錯誤するなかで最初に商品化が実現したのは、ふきん。そして、念願のケットも完成した。Udono fabricを使ってもらうことで鵜殿のヨシ原を知ってほしい。それが良質なヨシが育つ鵜殿の環境を守り、高槻に住む人の誇りになればと、鳥居さんは願っている。

ふんわり軽く保湿力がある8重ガーゼのケットを持つ鳥居さん。使うほどやわらかくなっていく

ヨシ原にすむ生きものたちをデザインしたアイテムも開発中

インスタグラム高槻市公式アカウントで「たかつきDAYS」9月号特集のこぼれ話を配信中!

1

Story 2

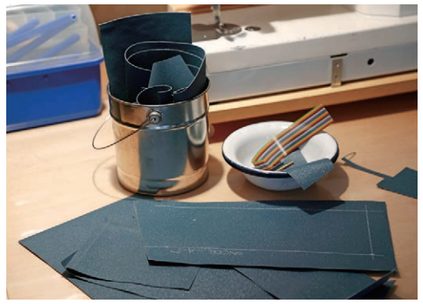
トラック幌（ほろ）⇒かばん

工場で出合った残り生地で自分のかばんをつくってみたら

店舗設計士の小野さんは、リノベーションの仕事が増えたことから現場で出る廃材をアップサイクル※するおもしろさに目覚め、さまざまなものをつくってきた。「ONODE（オノデ）」ブランドのかばんも、そのひとつ。設計した店舗に日よけタープを設置する際に仲良くなったテント会社の製造工場に行った小野さんは、片隅に打ち捨てられていた生地に目が行った。その時、頑丈で汚れに強いトラックの幌の生地なら、欲しかった、A3の設計図が入り、建設現場にも置けるタフなかばんにぴったりではとひらめいたのだ。

本来は捨てられるはずのものをデザインやアイデアで別のものに再生する魅力を、小野さんは「深みや味わいがにじみ出て、新品よりおもしろい」と語る。リサイクルにはコストがかかる。ならば新たな価値を吹き込み、それに見合う値をつけ流通させることが環境にもやさしいはず。価値を見いだすまなざしが、古きものに注がれる。

※廃棄予定だったものに付加価値を持たせて新たなものに生まれ変わらせ、価値を高めること。



工場や店舗向けのテントやカバーの工場で出合った余り生地。必要なサイズに足らず2色の端切れを縫い合わせたことでコンビカラーのバッグが生まれた

2

3

1　ベルトとかばんをつなぐ部分を三角にしたハコバッグ。トラックの幌の紐がけ部分をイメージ
2　スマホホルダー。パンツのループなどにカラビナを通して腰に吊り下げて使う
3　第1号を継承するテント生地のかばんをメインに、アップサイクル製品を展開

デザインや設計、製作まで、ほとんどのものをひとりで手掛ける。このテーブルから“一点もの”が生まれていく

高槻発の工業フィルムメーカーとのコラボで生まれたコレクションケース。製造する工業用・電子部品の梱包・出荷用収納ケースを再利用

ふるさと寄附金返礼品！

巻いて収納できるキャンプ用カトラリー入れと、余った帆布でつくるバッグ。いずれも高槻市のふるさと寄附金返礼品

事務所で使ういすも廃材をアップサイクル。座面の絶縁体は、高槻の産業廃棄物処理会社で出合った余りもの。この会社の社員手帳をつくった際、ペンフックにも使用

地元企業とのコラボも！

ごみや不用品はちゃんと出せば資源になる！

最近よく聞く「サステナブル」とは持続可能な社会を目指す考え方で、環境問題を重視した「エコ」も含めたもの。資源も経済とともに回せば継続的に循環させることが可能になる。手放す時は分別や不用品回収に。捨てずにリサイクルやリユースのショップ、フリマアプリを活用するのもいい。ものを生かす第一歩は誰でもできる。

再生・再利用可能なものを手放すときは

分別や
不用品回収に
お役だち

高槻市ごみアプリ
ID 002170

Story 3

建築廃材⇒手づくり雑貨

使うのは、設計士の夫の建築現場から出た建築資材の余りや廃材。木材やタイルのほか、職人が捨てた錆びた工具なども魅力ある素材に

「誰でもできる技術しか使っていない」という五十子さんだが、ものを見るとアイデアが浮かび創作欲求が止まらないのだそう

手を加えれば暮らしになじむ味のある一点ものの雑貨に

木材などの廃材や、いらなくなった瓶、缶などを利用したハンドメイド雑貨をつくる五十子（いかご）さん。作家人生のスタートは、子育てがひと段落して始めた造花アレンジメント。イベント出店で、ステンシル※した廃材にディスプレイして販売したところ、アレンジメントより人気が出たのがはじまりだ。5年前、夫の設計事務所の一部を「ハンドメイドショップNO.15」という店舗に改装。古物商の許可も取得し、作品だけではなく、昔の家具や雑貨なども扱うようになった。今は店番をしながら制作に取り組む。

五十子さんの作品には、引っ越しする人や、使わなくなったという人から引き取った不用品を材料にしたものも。思い出の品が新しい価値を得て作品になると知り、喜ぶ人は多いのだとか。安易にものを捨てないで、形を変えつつ使い尽くす。そんな暮らしのヒントがここにある。

※絵柄などを切り抜いた型をあてて上から塗料で写し取る方法

小さく切った木片に顔を描いたオブジェなど、店内には思わず手に取りたくなる作品がたくさん

木材を焼き網と組み合わせて作ったプランターケース

やってみて！

かんたんハンドメイドテク

ちょっと手を加えるだけで、不用品が使える雑貨に。必要なものは100均やホームセンターで手に入る。おすすめはステンシル。好みの文字や絵型がデザインされたステンシルシートを使えば手軽。転写シールを使う手も

アクセントオブジェのインテリアボード

板にステンシルし、穴をあけて針金を通して飾りたいものをとめる。取っ手も同様に取り付ける。飾りは皮や布を使ってネジでとめるのもアイデア

リメイクデニムのバッグと壁掛けフック

着られなくなったデニムをカットしてミニトートに。壁掛けフックは板材に100均のタオルハンガーと三角吊カンを取り付ける。ステンシルでポイントを

アンティーク風のリメイク缶

空き缶はラベルをきれいにはがす。塗料を塗る、好みのデザインのラベルを貼るなど自由にアレンジを。缶に穴を開け、針金で取っ手を付ける。コルクを刺しても